

令和6年度 連雀学園三鷹市立第四小学校の教育

連雀学園三鷹市立第四小学校

校長 佐藤 勇人

I 連雀学園の教育

1 三鷹市立小・中一貫教育校の目的

- 確かな学力、豊かな人間性を育む。
- 連続した学びの中で人間力、社会力を形成し社会における自立した一人の人間を育成する。

2 連雀学園の教育目標

地域に根ざし、たくましく現代に生き、進んで未来を創造し、社会に貢献する心身共に健康な児童・生徒を育成する。

3 連雀学園の目指す児童・生徒像

- 学び続ける人
- 共に生きる人
- ◎ 心と体を鍛える人

4 連雀学園の基本方針

小・中一貫教育で、児童・生徒の個性や能力を伸ばし、人間力・社会力を育む教育の実現を目指します。

- 選択交流学习、教師の授業交流、子どもの作品交流などの交流活動を充実させ、より豊かな人間性と幅広い社会性を培う学園づくりを進めます。
- 連雀学園新小・中一貫カリキュラムや一人一台配布されたタブレットPCを十分に活用しながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を進め、知的コミュニケーションを活かした学びを追究し「思考力・判断力・表現力等の育成」を目指し、学力・心力・体力をバランスよく伸ばす学園づくりを行います。
- 教育支援を重視し、一人一人の子どもを大切にする学園をつくります。
- コミュニティ・スクールを基盤とした学園づくりを目指し、地域に根ざした学園をつくるとともに、スクール・コミュニティの創造に寄与します。

II 三鷹市立第四小学校の教育

1 学校の教育目標

豊かな心を持ち、社会の変化に主体的に対応できる能力を育てるとともに、世界に目を向け、共にきたえ高め合う児童を育成する。

- ひとみ、キラキラ（挑戦する子）
- こころ、ワクワク（楽しく学ぶ子）
- ひとに、ニコニコ（思いやりのある子）
- からだ、ぐんぐん（体をきたえる子）

2 目指す学校像

- (1) 児童一人一人がよさを発揮し、意欲的、創造的に活動する学校
- (2) 家庭・地域と共に、知・徳・体の調和のとれた児童を育てる学校
- (3) 教職員が最善を尽くし、一致協力して組織的に教育活動を展開できる学校



自分で自分を伸ばし、みんなが楽しい生活を築く「夢育の学び舎」

Ⅲ 令和6年度の学校経営方針と具体的な方策

自分で自分を伸ばし、みんなが楽しい生活を築く「夢育の学び舎」を目指して

変化が加速度的に進む現代において、未来を見据え生涯にわたってよりよく生きる力の育成が最も重要である。「三鷹のこれからの教育を考える研究会最終報告」では、三鷹のこれからの教育における目標として、個人と社会のウェルビーイング、自らの幸せな人生とよりよい社会の創造に向かって、主体的に「人間力」と「社会力」を発揮する子どもたちの育成が求められている。第四小学校では、連雀学園の教育目標、目指す児童・生徒像を受け、学校の教育目標、目指す学校像の実現に向けて、学力・心力・体力の調和のとれた児童を、児童同士や保護者・地域との関わりの中で育成することに力点をおいて教育活動に取り組んでいく。一人一人の児童と丁寧に向き合い、その児童理解をベースに、「個別最適な学び」を目指した学習の展開や児童の安全・安心な生活の確保とともに、子ども同士や多様な他者との「協働的な学び」の充実も追究していく。

その上で、学力においては、連雀学園全体でこれまで培ってきた思考スキルを活かした知的コミュニケーションを生かした学習活動がさらに深まるよう授業改善を重ね、問題解決的な学習を展開し、「思考力・判断力・表現力等の育成」を進めていく。心力においては、人権教育の理念を基に、学園研究で深めた「特別の教科 道徳」の研究成果をさらに深めて、児童の思いやりの心と規範意識の醸成を図るとともに、学園全体で実施する「QUテスト」の活用などにより、よりよい人間関係づくりを進めていく。体力においては、調査結果を有効に活用して授業改善を行うとともに、日常的な体力づくりや食育を含めた総合的な健康教育を推進し、体力を向上させ、健康な生活を送る基礎の醸成を図る。

そして、この知・徳・体を一体的に育むために、連雀学園コミュニティ・スクール委員会と教職員との連携をさらに強化しながら協働し、「小・中一貫型小学校・中学校としての教育課程」「社会に開かれた教育課程」の一層の推進を図る。地域・保護者との結び付きを今後も大切に、「夢育支援ネットワーク」「PTA」「OYJ」等関係諸団体との連携をさらに深め、実感を伴った理解や地域社会での体験活動など、教育内容を充実させていく。

また、学校施設をより有効に活用できるようにして、児童の成長を見据えたよりよい学習支援の在り方を探っていく。

これらの教育活動を支える土台は、四小を支える教職員集団である。「教育は人なり」の精神をもって、児童のよりよい成長という目標の実現に向け、一致協力して「チーム四小」としての合意形成を図る。一人一人の教職員が、校歌の「どの子もよい子 かわいい子」に示される児童に対する愛情と学校に対する所属意識や誇りをもちながら、「創意工夫」と「チャレンジ」を試み、キャリアに応じてその能力を伸ばしながら力を発揮していけるよう、組織力の高い職場づくりを目指す。「サービスの厳正は教育公務員の最低基準」であることを忘れず、保護者・地域の信頼をより一層深められるよう、教育活動を展開していく。

令和6年度は、本校創立80周年を迎える。80周年の記念行事で、子どもたちや地域の思いや願いを教育活動に取り入れ、スクール・コミュニティ構想の実現に向けて、児童・保護者・地域の思いや願いが共有できるよう、協働して取り組む方策を常に検討していく。児童が主体的に「人間力」と「社会力」を発揮できるように育成するとともに、それに関わる保護者・地域、教職員も、自分で自分を伸ばし、みんなが楽しい生活を築くことのできる「夢育の学び舎」を目指し、以下のように令和6年度の重点と具体的方策を示す。

◆ 令和6年度の重点と具体的方策

(nは、学園経営方針取組番号)

(1) 学ぶ意欲と確かな学力を育てる 1 2

1	知的コミュニケーションを生かした学びを基本とし、問題解決的な学習による授業を行い、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
2	学力調査の結果から実態を確実に把握し、学習指導を計画的に進める。「できない、わからないをそのままにしない指導」として、算数の東京ベーシックドリル診断テストの個別達成率データを、算数習熟度別指導に活用するとともに、「学力補充日」を確実に実施するとともに、「四小地域未来塾」との連携を図り、学力の下位層に対しての学習支援を充実する。
3	GIGAスクールマイスター及びGIGAスクール開発員作成の指導計画や研究成果をもとに、1人1台の学習用タブレット端末を活用して対面や家庭との探究学習、オンラインでの学習活動、個々の課題解決など「個別最適な学び」の推進に取り組む。
4	言語活動を重視し、思考・判断・表現を伴う話す・聞く・書く・読む活動、考えたことを伝える学習を繰り返すことにより、言語能力の育成を図る。
5	児童が読書に親しみ、すべての学習の土台となるよう、朝読書の時間の確保を確実に行うとともに、積極的な図書館の活用を推進する。
6	ICTの活用、プログラミング的思考を日常の教科に組み入れ、全教科・領域で、自ら情報を活用し情報を読み解く力を高める。
7	授業改善と授業力の向上や多面的・多角的な児童理解の充実を図るために、中・高学年で教科担任制を推進する。
8	「三鷹「まなび」のスタンダード」を基にした「四小「まなび」のスタンダード（学習編）」を用いて、授業規律を全校でさらに定着させていく。

(2) 健やかな心と体を育てる 1 2 3 10 12 13

9	靴箱の整頓やあいさつの指導など、日常的な生活指導について、全員で一致協力した指導の徹底を図る組織的な生活指導の力をさらに高め、みんなが楽しい生活の基盤を固める。
10	学園研究における調査の活用により、自尊感情・自己肯定感を高め、困難に出合っても粘り強く努力する児童を育てる。
11	学園全体で実施するQUテスト（4～6年。1～3年は学級力向上プロジェクト）の取組みを有効に活用し、「自分が好き、学校が好き、先生が好き」な活気のある児童を育成するとともに、学級・学校の支持的風土を高める。
12	令和4・5年度の研究の成果を生かし「特別の教科 道徳」の研究をさらに深め、道徳教育の充実を図る。道徳的な諸価値について、児童が自分のこととして考え、自己の生き方について考えを深められるよう授業改善を重ねる。
13	校内委員会を中心とした教育相談、教育支援を充実させる。児童の指導記録の効果的な活用、SCとの連携、ユニバーサル・デザイン環境の整備などを推進するとともに、研修内容を充実させ、全教員の教育支援に対する理解を深める。
14	「学校いじめ防止基本方針」の周知・徹底を図るとともに、早期発見、早期解決を行い、解消率の向上を目指す。教員自身も毎週末「人権感覚チェックシート」の確認を行い、人権感覚を磨くとともに、いじめに対する鋭敏な感覚を醸成する。また、「校内A-room」など、校内施設

	を工夫して活用し、配慮が必要な児童の選択肢を増やすよう組織的に取り組む。
1 5	これまでのオリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、ボランティア・マインドや障害者理解など多様な人々への理解を深める教育を推進する。
1 6	体力テストの結果に見る体力の低下に対応し、コロナ禍におけるを活かした授業実践や体力向上の取組み、体育の授業改善を推進して、体力を向上させていく。
1 7	四小の児童に適した日常的な体力づくり、体育的な活動を計画していく。長なわ跳びや持久走、休み時間の活用等、体力向上を全校で日常化していく。
1 8	給食主任や養護教諭を中心に、栄養士とも連携して、総合的に健康教育を推進し、食育の取組みやアレルギー対応、健康的な基本的習慣の定着を図り、生涯にわたって心身共に健康な生活を送るための基礎を培う。
1 9	児童の思いや願いを取り入れた創立80周年の教育活動を通して、学校への愛着や誇りを醸成していく。

(3) 豊かな社会性を育てる 5 6 7 8 10

2 0	「夢育学習計画」を基にした地域学習、キャリア・アントレプレナーシップ教育を推進し、児童が社会活動との関わりの中で、自らの目標や計画を達成できるよう試行錯誤する経験を積み重ねるようにする。
2 1	日常の指導を積み重ね、挨拶の習慣化を図る。年3回の学園あいさつ運動と連動させ、児童が中心となった「あいさつ運動」を行い、挨拶の実践力を高める。
2 2	教育活動全体で自己表現の機会をできる限り設定し、言語活動を充実させるとともに、成功体験により自己有用感を高める。
2 3	異年齢集団によるたてわり班活動、連雀たてわり活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力やリーダーシップ、フォロワーシップを育て自己有用感を高める。
2 4	災害発生時に、児童が「自助」「共助」の精神に基づき適切に行動できるよう、避難訓練や安全指導を実態に応じて充実させる。施設の安全点検を確実に実施するとともに、熱中症事故や台風被害等への対処が確実にできるよう安全教育のさらなる充実を図る。

(4) コミュニティ・スクールを基盤にした小・中一貫教育の充実 3 4 5 6

2 5	相互乗り入れ授業、選択交流学习、中学校体験、連雀音楽会、生徒会・児童会連携は、創意・工夫して、児童・生徒・教職員の効果的な交流を目指す。
2 6	児童会・生徒会活動を核とした小・小、小・中の交流活動の取組みを通して児童・生徒の学園意識、リーダーシップ、パートナーシップを育てる。
2 7	「連雀学園版小・中一貫カリキュラム」と「新夢育単元計画集」の地域学習、キャリア・アントレプレナーシップ教育の指導計画を踏まえて、地域人財、地域資源を有効に活用し、住む街への愛着を深めるとともに、三鷹地域学習をさらに充実させていく。
2 8	学校施設の整備を適宜行い、放課後の施設利用を関係団体と連携して、学校三部制の第2部・第3部の円滑な実施につなげる。

(5) 地域・家庭との連携・協働の強化 4 9 11 14 15

29	「夢育支援ネットワーク」スタッフとの連絡会を年2回実施して、情報や意見の交換を密にするとともに、全教員の理解のもとで効果的な指導の在り方について改善しながら教育活動を推進する。
30	連雀学園コミュニティ・スクール委員会や連雀ジョイナス（地域学校協働本部）との連携を大切にし、子ども熟議等のサポート部の企画や連雀カレンダー、連雀学園コミュニティ・スクール委員会広報誌「JOIN US!」の発行等の広報部の広報活動への協力等を通して、学園としての一体感をもちながら、児童・生徒と職員・CS委員との交流活動の充実を図る。
31	連雀CS評価部の学園・学校評価アンケートの結果を、教職員間で共有するとともに、経営計画の見直しや教育課程の編成に生かし、学園4校の保護者・教員・地域、学園・学校の教育実践の振り返りを、目指す児童・生徒の育成に反映させていく。
32	PTAやOYJ（おやじの会）との連携を強化し、児童や保護者の願いや声を適切に受け止めることができるようにすると同時に、学校の教育活動の意図も正しく伝わるようにして信頼を深めていく。
33	創立80周年の節目にあたり、児童・保護者・地域の思いや願いを取り入れた80周年を記念する行事を実施する。

(6) 教職員の力量と協働体制の向上 1 14 15

34	一人一人の教職員が、高い志と児童や学校への愛情、相手意識をもって自らの責務を全うするよう、人材育成と体制づくりを行う。
35	副校長と主幹教諭が確実に進行管理しながら、学年主任や各主任、プロジェクトリーダーを核として課題解決にあたる組織作りを進めていく。そして、一人一人が持ち味を発揮し、「創意工夫」「チャレンジ」の精神をもちながら、一致協力して児童を育成していく。
36	確実な合意形成の基に授業研究をすすめたり、低学年の「交換授業」や3年生以上の教科担任制を確実に実施したりするなど、校内で授業を公開し合う体制を強化するとともに、対話に基づく研修受講の奨励によって自らの課題に応じた必要な研修を受講できるようにして、教員の育成、授業力の向上を目指す。
37	教職員は児童にとって一番の環境と考え、サービス事故防止研修を徹底して行うことにより、教職員の規範意識を醸成し、サービス事故を絶対に起こさない認識を深める。
38	学校の教育活動に理解と協力を求めるため、広報活動の充実を図る。学校行事や教育活動への参加の機会を広げたり、保護者・地域が「必要な情報」を得られたりできるよう、学校ホームページと「保護者連絡帳」での情報配信のしかたを常時改善していく。
39	「三鷹市立学校における働き方改革プラン」をふまえ、校務の効率化や教育活動の見直しを行う。「My ノー残業 Day」や「My 働き方改革宣言」を設定させて、教員自らが心身の健康保持に努めるよう促すとともに、「1ON1 ミーティング」によって教職員の心身の状態に配慮し、学校教育の質の向上を図る。